

特別企画

災害発生時の支援体制等を準備しているクラブ



NPO法人吉野スポーツクラブ ＜奈良県吉野町＞



いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対し、準備や対策ができるか、また災害発生地域に対し、どのような支援ができるかを考えることは、地域の諸課題解決に向けた取り組みとなり、より地域に根差したクラブとして定着するきっかけになりえます。

そこで、今回は、クラブの防災対策や被災地支援等の取り組みを紹介します。



1

クラブ概要

吉野スポーツクラブは平成（以下H）13年（2001年）文部科学省の総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業としてスタートしました。行政主導でH15年（2003年）8月に「吉野スポーツクラブ」として設立、H22年（2010年）7月にNPO法人格を取得、10年目を迎えたH25年（2013年）に吉野運動公園の指定管理者となりました。

吉野スポーツクラブの理念は「スポーツを通した まち ひと づくり」です。林業の町で栄えた吉野町ですが、近年林業が衰退する中、スポーツの力を活用して吉野町という地域社会の再建のためにスポーツクラブを通して町づくり・地域づくりを展開しています。具体的には、住民に対して地域力を高めるために健康・体力づくり事業財団や奈良県地域での花いっぱい運動支援などの多岐にわたる受託事業を行っています。このように、地域の新しい公共を担っている総合型地域スポーツクラブです。

★マラソン大会での炊き出しがきっかけ

クラブ主催の「吉野津風呂湖健康マラソン」が H20年(2008年)にスタートしました。
運営委員会で色々と検討して行く中で、以下の4項目がポイントとなりました。

- ①事務所を置いている吉野運動公園の体育施設が防災拠点施設であること。
- ②災害時に町民が避難し、食事の提供等も考えないといけないこと。
- ③吉野スポーツクラブが将来、体育館施設の指定管理を取った場合のこと。
- ④次世代のリーダー養成が必要であること。

● マラソン大会終了後も炊き出し事業は継続

以上のことから、クラブ会員全員で運営するマラソンにおいて、炊き出しを行うことが決まりました。炊き出しを行うのは、防災意識を持ってもらい、被災した時のノウハウの一つになれば良いと考えたからです。このマラソンはH24年(2012年)の第5回まで行われましたが、クラブや地域の諸事情で打ち切りとなりました。しかし、炊き出し事業は引き続き行っています。クラブ主催の約700人～800人が集うグラウンドゴルフ大会や町内のイベント、老人ホームへの慰問等と規模の大小問わず、クラブ会員から募って炊き出しの経験をしてもらっています。

★防災スポーツカーニバル

● クラブと中学が連携して防災意識を啓発・啓蒙

H27年(2015年)には、「防災スポーツカーニバル」としてイベントが行われました。毎年、小学生の会員と吉野町の中学校や近隣の高校の生徒を呼んでのスポーツクリスマス会を行ってきましたが、この年はクラブと学校連携(中学校の部活)事業の一環として中学生を中心にクラブ会員が交流する事業にして、中学生35名とクラブ会員(小学生・一般)約270名の合計約300名の参加でイベントを行いました。イベントでは、若い世代に向けた防災の啓発、啓蒙を行うことになりました。

● 消防署から講師招き防災講習会 防災ゲームも実施

「総合型クラブ＝地域ぐるみ」ということから小学生からシニアまでのクラブ会員が同イベントに参加し、午前中はグラウンド(中学生と高齢者のグラウンドゴルフ)や体育館(小学生とワーキング世代のドッジボール)でスポーツゲームを楽しんでいる途中に地震が発生したとの想定で避難訓練を実施しました。また、昼食は非常用の炊き込みご飯(お湯でもどす簡易ごはん)を炊き出しのクラブ会員が作り、中学生が配膳して試食を兼ねて食事をいただき、より実践意識を持ってもらうために、炊き出しの際には、炊き込みご飯をあえて少ない分量のパックで配布したとのことです。

昼食後、体育館に全員が集まって、消防署から招いた講師による防災講習会を聞きました。災害の怖さなどや地域住民の連携が如何に大切かを学び、講習会後はグループに分かれて防災ゲームを行いました。アドバイザーとして実際に参加しましたが、大変楽しく学ぶことができました。

【防災ゲーム】

①「何が要るかな」

「災害がおこりました」の合図で5m先の封筒を各自が走って拾い、封筒の中にはいろいろな災害が書いてある紙が入っています。その災害に必要な道具(防災グッズ)が5m先に置いてあります。道具を選択して、3m先の持ち物審査員に渡します。合格となれば選択した防災グッズがもらえるゲームです。なお、間違っている場合でも、後からもらえます。

②消火リレー「きやり〜みず・みず」

10人で1チームを編成します(1チーム子ども5人・一般5人)。一列に並んで、先頭がピンポン球やスーパーボールが入っている金魚すくい用の四角いプールから、それを水に見立ててバケツ等の容器ですくい、バケツリレーをして後方に送ります。最後の人のところに用意されている特大ゴミバケツがボールで満杯になったチームから座るゲームで、制限時間は5分です。



【防災スポーツカーニバル 参加者アンケート】

Q1:今日のイベントはどうでしたか？

参加者のうち一般・小学生の8割以上、中学生の6割以上が「良かった」と回答。

Q2:いろいろな人と一緒にできて良かったですか？

多世代交流については、一般・中学生の8割以上が「良かった」と回答したのに対して、小学生は「良かった」が約6割と中学生より約2割低い結果となりました。普段は親や友達といった限られた交流しかない小学生にとって、多世代との交流に緊張等を感じた児童もいたようです。一方で、一般、特に高齢者は、若い世代と協力する内容や種目を経験し、交流が「非常に楽しかった」と回答しています。

Q3:ドッジボールやグラウンドゴルフはどうでしたか？

全体の約8割が「楽しかった」と回答しています。全世代がスポーツの楽しさを感じたようで、大変好評だったことがうかがえます。

Q4:防災の勉強になりましたか？

「大いになった」または「少しはなった」との回答は全体の約9割を占め、「ならなかった」と回答したのは約1割でした。防災講習会については、意識づけや参考になったという回答をいただいています。

Q5:防災食はどうでしたか？

「おいしかった」との回答は一般・中学生で7割を占めましたが、小学生には少し不評だったようで、4割が「おいしくなかった」と回答しています。防災食の味についても、年代で感じ方に差があるようでした。

3

「ナラ・シェイクアウト」にも参加

H28年(2016年)とH29年(2017年)には、避難訓練を兼ねて、「ナラ・シェイクアウト※」に参加しました。H30(2018年)の今年も、炊き出し事業以外に施設の防災備品を一斉に点検し、「使用できるか」チェックしたほか備品の場所や個数の確認を行い、不測の事態に対応できるよう、事務所に一覧表を張り出しました。



※「ナラ・シェイクアウト」

災害時の被害を減らす取り組みとして、地域の防災力の向上を図るために奈良県防災統括室危機対策係が毎年7月9日に行う「奈良県いっせい地震行動訓練」。

★「炊き出しの実施で地域に絆が自然と生まれた」

アシスタントマネジャーの林美穂さん

「普段は顔を会わせることのない、それぞれの教室の会員と一緒に作業することで、地域のコミュニティーが広がり、新しい友達もできたと喜んでいただいています。また、炊き出しの炊き込みご飯を、みんなと一緒に食事をする中で、『いろいろ会話が弾んで、ごはんをおいしく食べることができた』など、会員さんから声をいただいています。また、自宅で一人食事する子どもが増えてきている中、いろいろな人達と一緒に食事する楽しさを知ってもらうことが必要だと感じています。当初は、炊き出しの実施で防災意識を持ってもらうことに目的を置いていましたが、終わってみると地域のつながりと絆が自然と生まれていました。炊き出しを行うことで、会員や地域のつながりが大変強くなったと思います。」

★「行政、地域内団体、学校と連携しつつ、防災活動に取り組みたい」

理事長の松原政則さん

「近年、少子高齢化が急速に進む地域の中で、防災に対する意識・対策がますます重要になってきています。そんな中、当クラブとしても、多世代の方の集まりであることを活用しながら、クラブ事業の中で防災を絡めていければと考えます。また、当クラブは毎年その年の一文字を決めて活動してきましたが、平成31年度は「連携」をテーマとして、一年の文字を「連」と決め、行政はもとより地域内各団体や学校とも連携しながら、スポーツだけにとらわれず防災についても地域の一翼を担えればと考え、活動に取り組んでいきます。」

（奈良県 クラブアドバイザー 川崎 香織）

クラブプロフィール

設立年月日 平成15年8月19日

所在地 奈良県吉野郡吉野町地区

運営 会員数 465名（平成30年12月現在）

予算規模：3410万円（内指定管理費2635万円、会費等775万円）

連絡先 〒639-3101 奈良県吉野郡吉野町山口910番地 吉野運動公園内

TEL 0746-32-1119 FAX 0746-32-1514

E-Mail ma27gd77ml@kcn.jpURL <http://web1.kcn.jp/ysc/>